

■議事概要

□日時：平成30年6月29日（金）17時00分～19時30分

□場所：生田緑地整備事務所 □参加者：14名

□議題：1. 希少植物などの生物情報の公表について 2. 30年度自然会議スケジュールについて
3. 初山地区植生管理計画について 4. 報告事項

■今回の協議事項

1. 希少植物などの生物情報の公表について

○緑地内にある希少種植物は盗掘等により絶滅の危機にある。安易に生物情報を公開することを防ぐ為にルールを定めることを検討した結果、以下のルールを決定した。

- ・担当団体が管理している地区の生物情報を、当該する団体の了承を得ずに公表しないようにする。
- ・掲示物の掲示、ホームページ等への掲載にあたっては、指定管理者が上記ルールに抵触していないかを確認の上で、対応すること。

2. 30年度自然会議年間スケジュールについて

○今年度の自然会議において検討事項項目案を提示し、年間会議日程並びに回数を5回（昨年度4回）に設定する事、項目について検討した。

【論点】

- ・日程決めと回数の見直しについて

議案事項の増加が見込まれることに伴う年5回開催（会議4回講演会1回）の提案について検討した。

第1回 6月29日 会議

（初山地区植生管理計画の承認・30年度検討事項を検討した）

第2回 8月か9月 会議

（初山周遊散策路地区植生管理計画案の提示）

第3回 10月頃 講演会

（地形変化の動向とそれに伴う土砂災害の予防について）

第4回 12月か1月 会議

（初山周遊散策路地区植生管理計画の協議）

第5回 3月 会議

（初山周遊散策路地区植生管理計画案の承認・市民部会年間活動報告と事務局承認・飯室山北地区の動植物調査の速報）

※その他にもその他の地区の植生管理計画について、奥の池の水質保全について、北口の中長期的対応について等の議案が見込まれます。

【その他】

上記の論点に加え、生田緑地全体を俯瞰して検討する課題を追加する。北口土砂流出対策については、専門的な技術論ではなく、勉強会等を通じて、対策計画で何を指すべきかの自然会議としての着眼点を取りまとめる。

3. 初山地区植生管理計画について

- 整備事務所より出された初山地区植生管理計画案について検討した。

【論点】植生調査の結果報告を踏まえ、ゾーニング毎に設定された目標植生について確認する。

【提案】草刈りで何を残すかはっきりさせるべきとの意見があり、修正案が確認された。D001おもい出のうたこみち・自然探勝路については、中低木層の落葉樹を含む適度に管理された樹林とする。D007とんもり谷戸地区については、中低木層の落葉樹を含む適度に管理された樹林を増やす。

【結論】実施プログラムにおいて、中低木・草本類の増加に向けて林床部の管理方針を明確にする。いにしへの植生を理解し、単純化せず多様な植生の再生を目指す。第4回、第5回自然会議にてさらに議論を重ねる。行政計画に意見を提案する。

【初山地区 ブロック位置図】



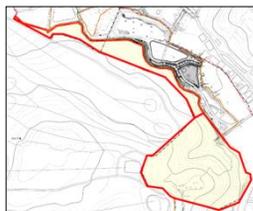
D01 おもい出のうたのこみち・自然探勝路

D02 初山芝生広場

D003 カトムシ広場

D004 水生植物鑑賞池

D005 初山多目的広場



3-4 植生管理計画策定に向けたスケジュール

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
植生調査												
生物種調査												
調査												
アーク受止め												
植生管理計画												
植生管理計画の作成												

D006 初山里山広場

D007 とんもり谷戸

初山周遊散策路地区植生調査

植生調査管理計画に向けた工程

●初山周辺散策路地区植生管理計画の検討に向けた動植物調査結果についての報告。

植生調査結果を受けての協議を踏まえ第2回自然会議において、植生管理計画案について検討する。竹林を周辺部に持つエリアについては、孟宗竹の侵入を防ぐべく留意し間伐を行う。

4.報告事項

●奥の池水質保全策についての事例紹介

北海道大学「醸造用水中の鉄の除去について」より。水中の鉄分の状態に着目し、現状のコロイド状鉄の集積している様子から、第二鉄イオンの生成促進に向けた、攪拌、曝気等による酸化促進が有効としている。⇒指定管理者から意欲的に科学的な視点をもった情報の集約を頂いた。今後もじっくりと考えながら進める。

●つつじ山B3地区、飯室山A15-2地区の状況報告

一定区域を皆伐し雑木林の再生を試みる地区であるが、雑木林を巻育てる会より作業を進めていく中で、実生の発芽だけでは十分ではなく補植を行っていきたいという報告があった。補植については、生田緑地内で生育している樹種や種子を使うのが望ましい。他の地区の植生管理計画に影響の出ない範囲で、実生から育った樹木の山採なども検討したい。購入する場合、産地に十分配慮する。雑木林再生には時間がかかるが、指定管理者とも協力して、少しずつ進めていく

●北口土砂流出対策について

市から応急的工事の進捗について報告があった。

●外部調査申請案件の進捗報告

4月以降、明治大学・東京大学・立教大学より3件の申請受理、いずれも許可済み。⇒調査結果に関して、公開して問題のない範囲で情報提供を受けるようにする。

●メーリングリストの扱いについて

Googleグループサービス、スプレッドシートサービスの導入について解説。

⇒指定管理者が変わるたびに仕組みが変わるのは自然会議としては不本意。審議継続。

●飯室山北側北東斜面地区の調査計画・結果については第5回自然会議にて報告予定

●モニ1000調査に基づく生田緑地の哺乳類について（かわさき自然調査団）

調査の結果、アライグマがいる様子。かわさき自然調査団の依頼を指定管理者が受け、捕獲を行う。

⇒すでに2台のワナ箱を用意しているので、設置場所を指示いただき設置・管理する（指定管理者）

●ホテルの国完了報告 例年にない雨と低温続きで確認数は若干少なめだった。

5.その他

●新規入会団体のご紹介

4・日本緑化工学会生物多様性緑化研究部会は、緑の再生・創出・保護・管理等に関する研究を推進し、自然環境の保全、生活環境の改善等に寄与することを目的としています。多摩丘陵地区の事例研究を行うなどしています。これら知見をもとに生田緑地の自然環境保全に役立てるよう活動してゆきたいと考えています。

■今後の予定

・平成30年、8月末～9月を候補に第2回自然会議を開催